

## はじめに

一般に、英語学術論文と聞くと、特殊な語彙が多用され、それ相応の高度な内容が含まれるという意味において、かなり難しいというイメージが喚起されるかも知れない。事実、専門性の高い内容を含んだ英語学術論文を難なく読みこなしたり、あるいは書いたりするのは、筆者の経験から鑑みても、それほど容易であるとは言いがたい。しかし、その反面、専門性の高い内容を言語化した特殊な語彙や表現を全て取り除いて、英語学術論文の骨格を形成していると考えられる英語表現について分析してみると、意外にもこれらのものは中高で誰もが学習してきたはずの基本語彙から構成されている場合が比較的多いことが分かる。もちろん、論文英語という意味では、中高の基本語彙がその当時学習した意味のままでも論文内でも使われるという保証は必ずしもないが、それでも中高で学習した基本語彙が論文英語の中核に存在しているという事実は、いずれにしても、見逃すことはできない。

本書は、このような事実を背景として、中高で学習してきたはずの基本語彙から、英語論文で用いられる学術表現を学習するための画期的な教材として刊行されるものである。英語論文表現に関する従来型の教材では、一般に、論文英語を特殊化した形で取り上げているため、中高までの英語学習との接点が見出しにくい教材が目立つと言える。すなわち、論文英語は論文英語としてそれ独自のスタイルがあり、中高までの英語学習とは根本的に異なるかのように教えられ、このことが「論文英語は難しい」という錯覚を引き起こしているような現実がそこにはあるように思われる。本書では、こ

のような錯覚を疑問視し、むしろ中高の基本語彙こそ、豊かな論文英語表現への基盤となりうるという斬新なコンセプトのもとで、中高基本語彙と英語論文表現の接点を積極的に開拓してみたいと考えている。したがって、本書で英語論文表現を学習することで、従来型の教材では解決しにくかった「中高の基本語彙のうち、論文英語ではどのような語彙が頻繁に使われるのか。また、論文英語で使用される中高基本語彙は実際にどのように使われるのか。」といった疑問をスムーズに解決することができる。また、中高基本語彙の延長線上に英語論文表現を掲げることによって、「論文英語は難しい」という錯覚を心理的に軽減し、英語論文表現の効果的な学習へとつなげることもできる。

本書では、相当数にのぼる中高基本語彙の中から、筆者の学術経験から判断して、どの分野の研究者にとっても極めて重要であると考えられる150語を厳選し、これら基本150語を用いた多種多様な英語論文表現を紹介している。とりわけ、本書で紹介している英語論文表現は、どの分野でも用いられる可能性が極めて高いと考えられる分野フリーの表現を中心に掲載しているのが最大の特長である。本書の構成としては、基本150語を10のユニットに分割して、1つのユニットを15の見出し語彙で構造化している。また、1つの見出し語彙につき、その語彙が用いられた表現例を10～15程度示してある。したがって、各ユニットには200を超える表現例が提示され、本書全体で見ると、2000を超える表現例が本書には収録されている。さらに、各ユニットの末尾には、穴埋め問題・表現和訳問題・英作問題から成る【練習問題】が設けられており、自らの学習効果を確認するための工夫も施されてある。もちろん、全ユニットの【練習問題】について、その解答例も本書の巻末に示してある。くわえて、本書

を全て学習した後は、参照用として本書が機能するように、本書には豊富なキーワード検索（日本語1030項目以上、英語860項目以上）も収録されている。したがって、本書は学習用としてだけでなく、論文執筆時や論文読解時の参照用としても有効活用することができる。また、このキーワード検索は、各ユニット末の【練習問題】を解く際にも、積極的に利用することが望ましい。

そもそも本書は、英語論文初心者の学部学生や大学院生を対象として執筆されたものであるが、英語論文に関心を持つ一般読者の方にも、本書をぜひお勧めしたい。また、論文表現にあまり関心がなくても、良質の英語表現を身に付けたいと考える一般英語学習者の方にも、一段上の英語表現法を目指すうえで、本書は有益な一冊となるかも知れない。この意味では、難関大学受験や大学院入試に向けての基礎的な英語学習にも、本書は極めて効果的であると考えられる。

最後に、本書を執筆・編集するにあたって、とりわけ寶壺貴之(岐阜聖徳学園大学短期大学部)、井土康仁(藤田保健衛生大学)、土屋智行(杏林大学)、小川典子(京都ノートルダム女子大学)の各諸氏から、建設的なコメントや温かい励ましを数多く頂いたことに対して、ここに記して深く感謝申し上げます。また、本書の出版に向けてご尽力頂いた大学教育出版の佐藤守氏と安田愛氏にも、心より御礼を申し上げます。

2011年5月 京都にて

著者

## 本書の構成

### ◎ 表現提示の方法について

本書では、以下の構成法に基づいて、英語論文表現が提示されます。

見出し語彙番号 ◇ 見出し語彙

【品詞名】見出し語彙の意味（学術的に重要なものに限定）

見出し語彙を含んだ表現例とその日本語訳

（10～15程度、見出し語彙は太字表記）

なお、表現例の一部には、代替要素として、ABC（名詞表現）、XYZ（名詞表現）、LMN（名詞表現）、S+V（文表現）、to do（不定詞表現）、doing（動名詞表現）といった略記を使用している場合もありますので、注意してください。

### 《構成例》

1 ◇ **above**

【形容詞】上述の、上記の

the **above** relationship（上述の関係、上記の関係）

in the discussion **above**（上記の議論では）

as the **above** discussion shows（上述の議論が示すように）

⋮

### ◎ キーワード検索について

日本語と英語の両言語からのキーワード検索を巻末に掲載しています。analysisや「分析」などの語レベルのキーワードから、必要な英語論文表現をスムーズに探し出すことができます。ただし、キーワード検索に掲載された数字は、そのキーワードが掲載されたページ数を表しているのではなく、そのキーワードを含んだ表現を掲載している「見出し語彙番号」を表している点に注意してください。なお、キーワード検索においても、見出し語彙は、分かりやすくする意味で、キーワード・数字ともに太字で表記してあります。

## 目 次

---

はじめに .....	i
本書の構成 .....	iv
<b>Unit 1</b> (above, account, aim, analyze, another, answer, appear, approach, area, argue, assume, attempt, basis, because, become) .....	1
練習問題《1》 .....	14
<b>Unit 2</b> (below, call, case, chapter, claim, clear, common, conclude, conduct, consider, define, describe, detail, difference, different) .....	15
練習問題《2》 .....	28
<b>Unit 3</b> (difficult, discuss, discussion, distinct, do, effect, enough, even, evidence, evident, examine, example, explain, explore, fact) .....	29
練習問題《3》 .....	41
<b>Unit 4</b> (field, figure, find, first, focus, following, further, future, general, generally, give, go, goal, great, have) .....	42
練習問題《4》 .....	55
<b>Unit 5</b> (here, idea, if, important, impossible, include, indicate, influence, interesting, investigate, issue, kind, know, lead, level) .....	56
練習問題《5》 .....	69

<b>Unit 6</b> (like, little, make, manner, matter, mean, mention, model, natural, necessary, need, new, next, note, notice) .....	70
練習問題《6》 .....	83
<b>Unit 7</b> (number, offer, other, paper, part, perspective, phenomenon, play, point, possible, present, previous, principle, problem, propose) .....	84
練習問題《7》 .....	96
<b>Unit 8</b> (provide, purpose, put, question, quite, reason, reasonable, remain, represent, require, research, result, same, say, section) .....	97
練習問題《8》 .....	110
<b>Unit 9</b> (see, seem, sense, show, significant, similar, sort, study, such, suggest, support, table, take, term, test) .....	111
練習問題《9》 .....	124
<b>Unit 10</b> (theory, traditional, treat, type, understand, unlike, use, useful, various, view, way, whether, widely, work, worth) .....	125
練習問題《10》 .....	138
日本語キーワード検索 .....	139
英語キーワード検索 .....	150
練習問題の解答例 .....	159